2025.1 新春号
Vol.64

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌

京都中部総合医療センター
Kyoto Chubu Medical Center

CONTENTS

■院長挨拶…… ①
■新年の挨拶 …… ②
■京都中部総合医療センターの看護師 … ③
■医療メディエーターとしての
交流と立場の認識…… ⑤
■緩和ケア研究会を終えて …… ⑥
■がん診療研修会での講演を終えて … ⑥
■京都亀岡ハーフマラソン 2024…… ⑦
■マイナンバーカード出張申請について … ⑦
■栄養科コラム季節の食材の栄養情報
縁起のよい出世魚！『寒ブリの栄養』 … ⑦
■京都中部総合医療センター看護専門学校… ⑧
■世界糖尿病デー
（World Diabetes Day）イベント… ⑨
■第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟に
参加して…… ⑩
■第 21 回 日本医療マネジメント学会
京滋支部学術集会優秀演題賞受賞 … ⑩

地域医療支援病院　紹介受診重点医療機関　臨床研修病院
救急告示病院　日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院　第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター　へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院（地域災害医療センター）
DMAT 指定医療機関　認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院　京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター
〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510㈹　FAX 0771-42-2096
https://www.kyoto-chubumedc.or.jp

京都中部総合医療センター広報誌

2025.1
Vol.64
新春号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して適切な医療を行います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療・介護・福祉等と連携しながら、専門診療を推進して地域完結型医療の中心的役割を担います。
3. 第二種感染症指定医療機関として、二類感染症もしくは新型インフルエンザ等感染症に対応した医療を提供します。
4. 救急医療、周産期・小児医療、災害医療を充実させ、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
5. 地域がん診療病院として、集学的医療を推進し、高度ながん医療を行います。
6. 働き方改革を推進するとともに、チーム医療を強化し、医療の質・安全性を高めるため、すべての職員の資質向上に努めます。
7. 公営企業としての役割を全うするため、経営効率を高め、健全経営を遂行します。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿報の保護を受ける権利
5. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 自分の健康情報を正確に提供する責務
7. 説明を理解するまで問う責務
8. 病院での規則に従う責務

院長挨拶

巳年に“復活と再生”を期待して

院長　辰巳（たつみ） 哲也（てつや）

新年明けましておめでとうございます。新春を迎え皆さまにおかれましては、お健やかにお過ごしのこととお慶び申し上げます。今年もどうか宜しくお願いいたします。

昨年１月１日に発生した能登半島地震から早や１年が経ちました。被災されたすべての皆さまに心からのお見舞いを申し上げますとともに、遅滞している能登の復興が少しでも前に進むことを祈っております。

さて、2024 年「今年の漢字」には「金」が選ばれました。日本漢字能力検定協会によると、「金」の字が選ばれた理由として、オリンピック・パラリンピックでの日本人選手や大リーグでの大谷翔平選手らの活躍による“光”の『金（きん）』だけでなく、政治の裏金問題、闇バイトによる強盗事件、止まらない物価高騰など“影”の『金（かね）』を理由にあげる人が多く見られたとのことでした。

世界的な物価高騰が続く中、6 月には診療報酬が改定されました。しかし、プラス分は看護職員などの医療関係職種の給与費にほぼあてがわれ、加算項目では細部にわたり厳しい取得要件が設けられ、実質的な改定率は実に厳しい内容となっています。外来延患者数、入院延患者数、病床稼働率、救急患者総受入件数などがコロナ以前の 2019 年度並に戻っていない反面、人件費の増加、物価高騰に係る材料費・医薬品費、さらにはエネルギー価格高騰に伴う光熱水費の顕著な増加が続いています。また、2024 年度の人事院勧告を踏まえた給与改定に基づく支出は診療報酬によるベースアップ料をはるかに上回る見込みとなり、病院経営においても「金（かね）」に係る悲鳴が出ています。人材難を見据えて、医療 DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進するためにも大きな費用がかかります。一般企業の分野では価格転嫁という手法も取られますが、診療報酬という公定価格により運営する医療機関は経費の上昇分を価格に転嫁することができず、診療報酬がインフレ経済の実態に見合ったものに改定されない限り、経営改善へ向けた妙案が浮かばない状況です。

建築物価も同様に高騰したことを受けて、京都中部総合医療センターでは新棟整備プロジェクトの財政再検討を行ってきましたが、老朽化した病院の外来、手術室、集中治療室、放射線部門や救急病棟など急性期医療の中心機能を維持する必要があり、12 月組合議会の承認を得てプロジェクトを再開することとしました。働き方改革への対応や医療従事者の不足など課題は山積していますが、地域医療支援病院、第二種感染症指定医療機関として今後も地域住民の皆さまに最新・最善の医療を提供できるよう職員一同努力してまいります。

2025 年は巳年（蛇）です。蛇は古くから豊穣神・天候神として信仰の対象とされてきました。蛇は不老長寿や強い生命力につながる縁起のいい生き物と考えられており、脱皮のイメージから巳年は“復活と再生”を意味します。本年が皆さまにとって、新たな飛躍と繁栄の一年になりますように、心からお祈りいたします。今年もどうか宜しくお願い申し上げます。

新年の挨拶

総長　伏木（ふしき） 信次（しんじ）

ブルックナーのシンフォニー第９番を、ヘルベルト・ブロムシュテット指揮のバンベルク交響楽団の演奏で聴いた。2024 年７月に 97 歳を迎えたブロムシュテットは車イスに座ったままながら、右腕で拍を刻み左手でニュアンスを伝える指揮は健在であり、ときに目を閉じ、笑みを浮かべながらの指揮はブルックナー最後のシンフォニーに相応しく感じられた。

さて、『健康寿命』という言葉を聞くようになって久しい。2013 年から厚生労働省により開始された『21 世紀における第二次国民健康づくり運動健康日本 21（第二次）』においては基本方針の第１項に、「健康寿命の延伸と健康格差の縮小」が掲げられた。2022 年 10 月の最終評価報告書では、2019 年の値を 2010 年の値と比較し、男女ともに健康寿命延伸の目標値に達したと評価された。

ところで『健康寿命』とは、「日常的・継続的な医療・介護に依存することなく、自立した生活ができる生存期間」をさすとされる。しかし、「日常的・継続的な医療・介護に依存することなく」という前提条件はどこまで満たされるべきものなのか。たとえば、冒頭に紹介した指揮者は車イスでの生活ながらも聴衆を感動させる音楽を提供する能力には全く衰えを感じさせない。このような場合、たとえ本人が「日常的・継続的な医療・介護に依存」していたとしても健康寿命を生きておられるとみなしてよいように思われる。

申すまでもなく人にはさまざまな能力や個性が賦与されている。したがって、年齢のみでもって「前期高齢者」や「後期高齢者」というラベルを張ることは、当人の QOL の観点からみても望ましくないのではなかろうか。人口減少局面という、いわば厳しい冬を迎えつつある中、医療に携わる私たちは、病院に来訪される患者さん一人ひとりに対して、その多様性を尊重し、ラベルに左右されない温かく柔軟な姿勢で臨めるよう精進したいと願っている。

2025 年が読者の皆様にとって幸せな、そして思い出に残る年となりますよう祈念申し上げつつ、新年のご挨拶といたします。

看護部長　増谷（ますたに） 照代（てるよ）

新年あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は１月１日に能登半島地震が発生し、不安な１年の始まりでした。地球温暖化が進み、自然災害の発生リスクが高まる中、災害の備えを常に行っていかねばならず、日頃より災害対応マニュアルの確認や訓練の必要性を感じております。また大きな出来事として、パリオリンピックが印象的でした。特に金メダルを取られたスノーボードの堀米雄斗選手や男子体操団体、男子バレーボール選手など、金メダルという目標に向かって最後まで諦めずチャレンジされる精神力やチームワークを大切に全力で楽しもうとする姿に感動しました。

さて今年は、2025 年問題と言われていた国民の５人に１人が後期高齢者（75 歳以上）という超高齢化社会を迎えました。南丹医療圏の高齢化率は今年 35.6%（令和７年推定値）です。皆様が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、医療機関連携を深めていきたいと考えております。また医療・介護人材の不足が課題となる中、IT や AI の活用も増々進化していきます。地域の皆様にとっては便利な面と慣れない作業や変化に対して精神的負担も大きいかと思いますが、何より安心してご利用していただけるよう環境作りに気配りして参りたいと思います。

今年は巳年で、「再生する力」や「無限の可能性」、「巳」を「実」にかけて「実を結ぶ」とも言われています。何事も努力すればいつか実るという希望を持ちながら精進して参ります。どうぞご支援の程よろしくお願いいたします。

京都中部総合医療センターの看護師

当院には常勤・非常勤を合わせると 304 名の看護師が働いており、産休や育休などの者を含めると 333 名の看護師が在籍しています（2025.1.1 現在）。通院されている方は外来の、入院経験がある方は病棟の看護師の事をよくご存じだと思いますが、それ以外のところでも多くの看護師が活躍しています。

今回は、様々な場面で活躍する当院の看護師について紹介します。

病棟	外科系、内科系、産婦人科系・小児科系の 8 病棟で 24 時間365 日看護にあたります。実習生の指導も行っています。
外来	月曜日から金曜日まで、AM8：30 からの各外来の看護にあたります。
手術室	月曜日から金曜日まで手術にあたります。 休日や夜間の緊急手術にも対応しています。
救急室	外科系、内科系、産婦人科系・小児科系で 24 時間 365 日救急患者の対応にあたります。
入院患者サポートセンター	患者パス※を使用する予約入院の方に、入院前の説明や情報聞き取りなどの対応をしています。
透析室	月曜日から土曜日まで、午前・午後の 2 部に分かれて透析を受けられる患者対応にあたります。
特定看護師 認定看護師	専門的知識や技術をもった、様々な分野の特定・認定看護師が活躍しています。
訪問看護ステーション	自宅で過ごされるこの地域の方々に必要な看護を提供しています。
健診センター	月曜日から金曜日まで、予約で来られる健診患者さんの対応にあたります。
地域医療連携室	看護師やソーシャルワーカーと、入院や退院の相談や支援をします。
総合案内	病院に入って正面にあるインフォメーションで患者やご家族の相談に対応しています。
看護専門学校	附属の看護専門学校でも、看護師は教員として看護学生の育成に携わっています。
その他	入院病室を確保するベッドコントロール担当者や、看護師の人事担当、全体を統括する看護部長などがいます。また、DMAT（災害派遣医療チーム）の隊員として、実際の災害現場に赴き様々な支援にあたります。

※ 入院から退院までの治療内容や生活を、決められた経過を 1 枚の用紙にまとめたものです

このように多くの場所で働く看護師は、休日や夜間も勤務しています。まだまだ看護師が足りないのが現状ですが、地域の患者さんに少しでも安心して暮らしていただけるようにと日々努力、研鑽しながら頑張っています。

また、認定看護師が患者さんの自宅を訪問し人工肛門のパックの交換指導や、施設に赴き褥瘡ケアについての指導、感染対策の視察や指導をしたり、認知症について研修を行うなど、多くの看護師が院外でも活躍をしています。地域でイベントがあった際には救護班として看護師派遣に応じ、安全な運営に協力しています。看護師だけで行く場合や、医師等とチームで参加する場合もあります。この他、多職種と共に健康への啓蒙活動のため地域でイベントを実施することもあります。

副看護部長
松岡（まつおか） 美代子（みよこ）

地域でのトライアスロンや花火大会に救護班として出務。看護師をはじめとした様々な職種で安全な運営に貢献しています。

高校生の職場体験。
看護の仕事の楽しさを伝えます。
将来共に働けることを期待して！

最新のロボット支援下手術も、看護師として支えています。
先進の医療をはじめ、様々なフィールドに携わることができるのも当院の魅力です！

医療メディエーターとしての交流と立場の認識
（医療安全相互ラウンドより）

医療メディエーター・地域医療連携室主査　關口（せきぐち） 祐生（ゆうせい）

「医療安全のメディエーターになってもらえないだろうか」あるときの３月にそのようなお言葉を頂いた。そのとき返事はしなかったが、不思議と“私にはできません”という言葉は思い浮かばなかった。答えは出さぬまま招待された医療安全管理対策委員会に出席し、そのままメディエーターとして迎えられることになった。

加入して以降さまざまな医療安全の事例に携わった。長い病院運営の中でも、今まで起きていなかったような医療事故事例に介入している。中には世界でも数例しか報告がないものもある。医療事故の多くは転倒転落による二次的外傷か、医療行為の際にエラーが起こっての医原的損傷や臓器的影響が占めている。本来治療してもらうために来たはずなのに病院に傷つけられた、本人やご家族の無念な気持ちは如何ばかりか、到底正しく推し量ることはできない。これは被害者側だけが許された感情であるからだ。メディエーターは話を聴き共感を中心に対応するが、相手の思いは真に理解はできない。矛盾を持ったまま、医療メディエーターとして病院側と患者側の中間に立っている。

そのような中で、10 月 21 日に市立福知山市民病院との医療安全相互ラウンドが実施された。相手方の医療安全管理者のほかに、同じ医療メディエーターの方にも参加いただけた。他施設の医療安全としての取り組みを知ることができる貴重な機会であるが、それと同時に私にとっては他院のメディエーターとの初めての交流であり、普段の活動や対応方法・マインドなどを共有したく相互ラウンドに臨んだ。実際に交流を経て、様々な事例について意見交換を行うことができた。ラウンドを巡る中で、その場所ならではの医療安全介入例についてのエピソードが出てくる。医療行為自体はパスのようにある程度型に填まった対応があるが、医療安全対応では一人ひとりの社会背景やペルソナの考慮も必要となる。

意見交換を行う中で、メディエーター同士で１つ再認識することがある。どの事例も本心から金銭的補償は求められなかった。求められるのは、医療者からの誠実なる謝罪と説明、なぜ事故が起こったかの真実である。医療メディエーションの過程では、メディエーターは患者や医療者の「言葉でなく心を聴く」姿勢の中で、その深い想いを見つめ、互いに表層の対立の背景にある何かに気付くことを支援していく。そのために、患者や医療者の深い想いに気づき、寄り添うセンスとマインドを身につけていなければならない。そうした姿勢が身についたとき、はじめて「skill」が「will」として真に反映されてくる。

背負った感情はその人だけのものであり、他人が真に理解することは困難であるが、少しでも“相手の心を聴く”。結局はこのマインドから逸脱せず、ひたすら真摯に患者側に向き合うことに限る。基本に立ち返るメディエーター同士ならではの交流が、今回のラウンドで実現し有意義な時間であった。

緩和ケア研究会を終えて

緩和ケアチーム委員長・消化器内科部長　小木曽（おぎそ） 聖（きよし）

2024 年 10 月 17 日、当院講堂において「令和 6 年度　緩和ケア研究会」を開催しました。講師には、名田庄診療所の中村伸一（なかむらしんいち）先生にお越しいただきました。

中村先生は卒後 3 年目に福井県名田庄村（現在の大井郡おおい町名田庄）の診療所に唯一の医師として赴任され、総合診療医として 30 年以上にわたり住民の方々の命と健康を支え続けてこられた方です。講演会やメディアでの情報発信も積極的にされており、「プロフェッショナル 仕事の流儀（NHK）」、「N スタ（TBS）」、「早川一光のばんざい人間（KBS 京都ラジオ）」等に出演されています。

講演会では中村先生と患者さん・ご家族とのいくつもの「物語」が語られました。終末期の患者さんたちの「孫の試合を応援したい」、「ペットと一緒に過ごしたい」、「最期に桜をみたい」といった様々な願いに寄り添い、診療所・介護センターのスタッフや地域の方々が奔走されます。叶わなくて悔しい思いが残ったお話もありましたが、患者さんだけでなく、残された家族がどれだけ身体的、精神的に救われたことと、心が震えました。エビデンスに基づいたデータの話を聞き、知識を蓄えることも無論大切ですが、たくさんの患者さんに対して身をもって尽くされた「生」のお話は、我々の心に強く響きました。

多くの業務に追われる毎日の中で、本質的に大切なことをつい忘れてしまいがちですが、今回の講演で医療人としての原点を再認識することができ、大変有意義な会となったと思います。忙しい合間を縫って来ていただいた中村先生に本当に感謝申し上げます。

中村先生は書籍も多数出版されていますので、ご興味を持たれた方は是非手に取ってみてください。

がん診療研修会での講演を終えて

外科部長　渡邉（わたなべ） 健次（けんじ）

私は当院にて主に手術、抗がん剤を中心とした胃癌治療を行っております。この度はがん診療研修会にて、院内外の医療関係の方を対象として、「地域基幹病院での胃癌治療の現状」というテーマでの講演をいたしました。

胃癌の患者数は減少傾向ですが、悪性腫瘍の死亡原因としては癌の中では 3 位と、未だ罹患する方が多い病気です。

講演内容の要約は、「胃癌手術では根治性と同様に低侵襲、術後の QOL の維持が現在求められております、1881 年ビルロートが幽門側胃切除に成功して以降 100 年以上開腹手術が標準治療でしたが、2000 年代になりロボット支援下手術が始まり現在ではかなり普及しており、拡大手術から低侵襲手術へ移行している。化学療法では近年になり様々な抗がん剤が胃癌に対して適応になり、余命延長効果が期待され、手術と組み合わせ根治治療が可能である場合がある」というものです。

講演後には胃癌治療に関する質問を頂きましたが、その中でも印象に残っているのが、胃癌手術後の食事摂取不良の患者さんへの向き合い方に関してです。胃癌手術後に食事摂取量が改善しない患者さんも多く、それに伴い体重減少も顕著に起こります。そういった患者さんへの説明や寄り添い方に未だ迷うこともあり、なかなかこの質問に関してこれというお答えが出来ませんでした。

今後も研鑽を積み重ねながら、患者さんの苦痛や悩みが少しでも改善できるようになればと、改めて感じた次第です。

京都亀岡ハーフマラソン 2024

循環器内科部長　野村（のむら） 哲矢（てつや）

2024 年 12 月 8 日に亀岡市で開催された第 10 回京都亀岡ハーフマラソンに、当院の医師 5 名および看護師 1 名がメディカルランナーとして、また一般ランナーとして医師・看護師・放射線技師など多くの職員も参加しました。今年は 10 回目となる記念大会で、例年通りの約 4,000 人のランナーが、天候にも恵まれた師走の亀岡盆地を一斉に疾走してまいりました。メディカルランナーは、参加者が怪我や急病に遭った際に救護にあたる任務を担いますが、幸いにも実際の救護に当たることなく大会を終えられたことがなによりです。地域住民の健康を預かる地域拠点病院の職員として、この大会は地域の皆様との交流を深める良い機会となっており、今後も様々な交流を通じて、地域の皆様に愛され信頼される病院を目指してまいります。

マイナンバーカード出張申請について

医事課主事　中野（なかの） 聖哉（せいや）

マイナンバー法等の一部改正法によって、令和 6 年 12 月 2 日より健康保険証の新規発行が終了しマイナ保険証へ完全移行となりました。マイナ保険証の利用率を向上させるため、厚生労働省は補助金の給付やマイナ保険証カードリーダー増設支援等、利用促進に向けた事業を多数行っています。

マイナ保険証利用率向上のために当院でもチラシの配布、ポスターの掲示等の活動を行ってきました。令和 6 年 10 月 3 日には南丹市役所市民課の職員 2 名にお越しいただき「マイナンバーカード申請・なんでも相談窓口」を開設し、患者さんが行政機関に出向くこと無く、マイナンバーカードの発行申請を当院の受診の空き時間に行うことができました。この窓口の開設を通じて、地域の方への手助けをするとともに利用率の向上に貢献することができました。

こうした活動の結果、当院でのマイナ保険証の月間利用率は令和 5 年 10 月度は 4％でしたが、令和 6 年 8 月度では 17％まで上昇しました。医療 DX（デジタルトランスフォーメーション）を活用した医療サービスの質の向上のため、当院では今後もマイナ保険証利用促進活動を積極的に行っていきます。ご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

栄養科コラム 季節の食材の栄養情報　縁起のよい出世魚！『寒ブリの栄養』

管理栄養士長　中澤（なかざわ） 誠（まこと）

関西では「つばす・はまち・めじろ・ぶり」と成長するにつれ呼び名が変わっていく魚で、この季節は旬の『天然寒ブリ』が美味しい時期となります。料理の種類もお刺身、ブリ大根、照り焼きといった脂の乗りを味わえるものが安価で手に入る時期です。天然モノは養殖と比べ、海の中を時速 100Km で泳ぎ回る肉食の回遊魚で、その身は人の筋肉を作るタンパク質（BCAA）が多く、お肉よりも優れたタンパク質を含みます。また、この時期の腹身は血液をサラサラにする EPA（エイコサペンタエン酸）や認知症予防の DHA（ドコサヘキサエン酸）を普段より多く含みます。

買い方や食べ方にもポイントがあり、切り身で購入される場合はできるだけドリップ（ピンクの汁）が少ないパックや血合い（茶色の身）の鮮やかな赤色のものを選ぶと新鮮で栄養価の高い切り身が頂けます。血合いは食べ残す方も多くおられると伺いますが、血合いに多く含まれるヘム鉄は貧血改善の重要な栄養素となるので、是非！残さずに食べていただきたいものです。

また、ブリの臭みが苦手な方は、塩焼きや照り焼きの場合には下ごしらえとして切り身に薄く塩と酒をふりかけて、傾けたまな板の上で 30 分寝かせてみてください。調理前に出てきた余分な水分をキッチンペーパーで拭き取ってから調理すると臭みがとれ食べやすくなります。

これから本格的に旬を迎える『寒ブリ』を食べて丈夫な筋肉・血管を手に入れましょう。

地域保健活動からの学び

1年生　川瀬（かわせ） 史斗（ふみと）

南丹保健所の保健師の活動として取り組まれている、京都丹波地域でのウォーキングに参加しました。参加者とウォーキング中に会話し地域の魅力を共有する中で、地域の歴史を学ぶだけでなく、自然の美しさを感じることができました。一緒に参加した地域の方々は温かくて親しみやすく、楽しい時間を共に過ごすことができました。

この経験を通して、地域の人々と一体となる喜びを感じ地域活性化の大切さを学びました。この経験を今後の学習に活かしていきたいです。

災害活動授業での学び

2年生　田中（たなか） 都奈美（つなみ）

授業で段ボールハウスを実際に組み立てることで、災害時に必要な知識やスキルを学ぶことができました。いざという時に自分がどのように行動すべきかを具体的にイメージできました。ダンボールで部屋を作るときは、限られた材料で機能的かつできるだけ心地よい空間を作ることが大切だと感じました。

避難してくる方は高齢者の方から小さい子供までと年齢も広く、車椅子の方や目が見えない方がおられたりと様々な方が集まるため、場所を区切ったり相談室を設けたりと、安全やプライバシーを確保する工夫が必要だと学びました。

国家試験に向けて

3年生　井上（いのうえ） 蘭（らん）

領域別実習ではさまざまな患者さんを受け持たせていただきました。コミュニケーションや援助を通して、看護師としての役割や機能だけでなく、患者さんの喜びや悲しみの感情を共感しながら学びを深めることができたと感じています。

患者さんの疾患に加えて、薬剤や食事内容、リハビリテーションなどの援助の中でどのような作用と副作用があるのか、なぜこのような食事形態であるのかなど追求し学びを深めることができ、自分自身の知識として身につけることができたと感じています。

今回の実習での学びから得た知識を用いて、国家試験の勉強に励んでいきたいと思います。

世界糖尿病デー（World Diabetes Day）イベント

糖尿病委員会委員長／内分泌・糖尿病・代謝内科医長　馬場（ばんば）　遼（りょう）

毎年 11 月 14 日は国際糖尿病連合（IDF）と世界保健機関（WHO）により「世界糖尿病デー（World Diabetes Day）」と制定されています。糖尿病の治療に必要なインスリンを発見した、カナダのフレデリック・バンティング博士の誕生日が 11 月 14 日であることに由来しています。世界糖尿病デーのシンボルである「ブルーサークル」は、世界的に増加を続ける糖尿病に対する意識を高め、一致団結して対策することを呼びかけるために掲げられており、世界各地で糖尿病に関してのイベントが行われています。

当院でも糖尿病委員会が中心となり糖尿病に対して様々な啓発活動を行っており、2022 年度からは JR 八木駅のブルーライトアップも実施しています。2024 年度は午前中に院内で血糖測定体験、栄養相談、VR 体験などを行いました。夕方からは JR 八木駅のブルーライトアップに加えて、新たな取り組みとして南丹市・南丹保健所・南丹市商工会・八木町観光協会・八木町南地区自治会・大堰塾など多くの方の後援や協力を得て、ライトアップとともに八木の街を歩くナイトウォーク企画を実施しました。ナイトウォークの途中に八光館で大根煮といった温かい食べ物の提供も行っていただき、総勢約 100 人の方々にご参加をいただきました。

2024 年から 3 年間のテーマは「Diabetes and well-being（糖尿病とウェルビーイング）」です。ウェルビーイングは WHO によって提唱された概念で、病気の有無にかかわらず、肉体的・精神的・社会的に満たされた状態のことを示しております。日本糖尿病学会などが提唱している糖尿病治療の目標は、血糖・体重・血圧・脂質の良好なコントロールを維持し、合併症の発症や進展を阻止することで健康な人と変わらない日常生活の質と寿命を確保することです。糖尿病の重症化予防のためには早期発見・早期治療が重要ですが、医療機関や健診で糖尿病と指摘されたことのある人の中で、「治療を受けていない」人は数多くいるといわれています。世界糖尿病デーの運動を通じて、地域住民の方々に糖尿病のことを知っていただき、健康への意識を高めるきっかけになれば幸いです。

最後になりましたが、今回の世界糖尿病デーのイベントでは南丹市をはじめとして、沢山の方々から多大なご支援やご協力をいただくことで実施することができ大変感謝しております。また、当日は大変多くの地域住民の方々にご参加いただきましたこと、運営スタッフ一同心より厚く御礼申し上げます。今回のイベントを通じて、地域医療支援病院である当院が中心となり、糖尿病などの疾患啓発活動を行う重要性を再認識させていただいた次第です。

JR 八木駅のブルーライトアップ

院内での健康チェックなどの光景

第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟に参加して

2024 年 10 月 31 日～ 11 月 1 日、新潟市で第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟が開催され、当院からは医師 4 名、看護師 4 名、薬剤師 1 名、診療放射線技師 1 名、作業療法士 1 名、管理栄養士 1 名、臨床検査技師 1 名、臨床工学技士 1 名、社会福祉士 1 名、事務職員 1 名の計 16 名が演題発表しました。

臨床検査技師　葛岡（くずおか）　慶（けい）

当学会には初参加させていただきました。各プログラムの会場に沢山の参加者が集まっており、想像していたより大規模でワクワクする雰囲気でした。聞くところによれば参加者は合計 4,000 人以上に上ったとのことです。

私自身はポスター発表にて、当センターでこの度導入した長時間記録心電計による不整脈検出効果について発表しました。他施設の同業者から注目される緊張感と、ちょっとでも爪痕を残してやるぞというやる気に満ちた時間となりました。

1,400 件を超える一般演題からは、様々な気付きや創意工夫が見られました。常に何かをより良くしていこうという姿勢と、多角的な視点をもって課題解決に臨むことの大切さを再認識させられました。

総会シンポジウムや各分科会講演では、DX（デジタルトランスフォーメーション）や働き方改革など、昨今の医療にも大きな影響を及ぼしている社会の変革に関連する話が印象的でした。広くアンテナを張り、変化に対応する力を身につけていかなければならないと感じました。

今回の体験から得た知見を今後の活動にうまく落とし込んで、利用者・スタッフ・地域にとって、より良い環境づくりに活かしていきたいと思います。

第 21 回 日本医療マネジメント学会京滋支部学術集会 優秀演題賞受賞

2024 年 10 月 19 日に京都市で開催された第 21 回医療マネジメント学会京滋支部学術集会において、当院から理学療法士 1 名、臨床工学技士 1 名、事務職員 2 名が演題発表しました。

発表演題の一つで、総務課の田中裕詞主任が発表した「専門職職員の人材確保における計画的・効果的な採用活動への取り組みについて」が優秀演題賞を受賞しました。

総務課主任　田中（たなか）　裕詞（ゆうじ）

今回私は、採用人事の事務担当の立場から、専門職職員の採用活動について発表しました。

病院は医師や看護師だけでなく、様々な職種・部門から成り立っており、その大半が資格がなければ従事できない専門性の高い業務です。病院にとって不可欠な存在ですが、当院では近年、募集をしても応募が集まらないという事態が時折起こっています。労働人口が減少していく中、このままでは専門職の人材確保はますます困難になるという危機感から、これまでの課題を整理し、効果的かつ効率的な採用活動実施に向け、対策を立てて運用を改めました。

その効果検証についての発表でしたが、今回の取り組みは総務課人事係をはじめ、各部門の協力がなければ成り立っていません。この場を借りて関係各所の皆様に感謝申し上げます。今回のことを励みに、今後もより良い人材の確保に向け尽力して参りたいと思います。

ケアワーカー募集中!!

人の役に立つ喜びを、病院で感じませんか？
患者様とご家族を支える、やりがいのあるお仕事です。

未経験者から50代の方まで幅広い職員が活躍中です。
あなたも病院介護職員として、温かいケアを届けて
地域医療に貢献しませんか？

ーお問合せ先・求人情報ー

京都中部総合医療センター
総務課　人事係
☎ 0771-42-2510
✉ soumu@kyoto-chubumedc.or.jp

正職員　非常勤職員

看護職員募集

一緒に働く仲間、大募集
新しいこと、極めること、
仲間とともに。

看護師寮利用できます。（正職員）
月額 4,000 円（税込）

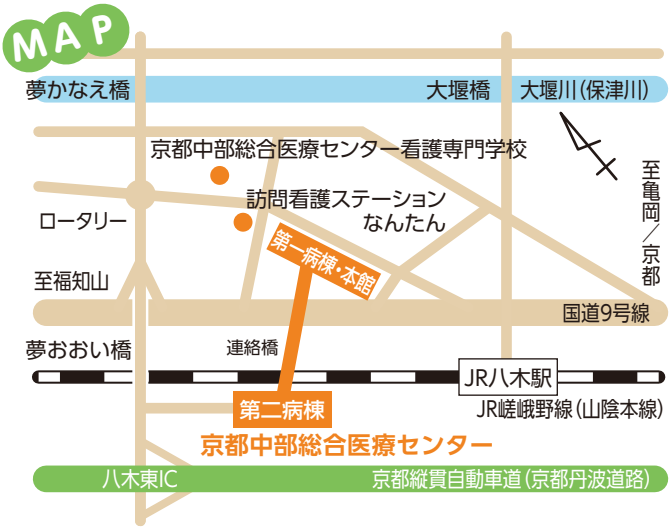
〒 629-0197
京都府南丹市八木町八木上野 25 番地
京都中部総合医療センター総務課人事係
TEL 0771-42-2510(代)まで

詳しくはホームページをご覧下さい。
http://www.kyoto-chubumedc.or.jp/nurse/

編集後記

あけましておめでとうございます。
今年の 4 月 13 日（日）～ 10 月 13 日（月）、大阪・夢洲で大阪・関西万博が開催されます。日本で開催されるのは 2005 年の名古屋愛・地球博以来 20 年ぶり、大阪で開催されるのは 1970 年の日本万国博覧会以来 55 年ぶりです。
今回の万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」だそうです。前回の愛・地球博は中学の校外学習で訪れ、各国のパビリオンの非日常感にワクワクした記憶があり、個人的に楽しみにしています。　広報委員会 C.Y.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。



発行：京都中部総合医療センター広報委員会